

奥羽大学報



令和7年度 卒業証書・学位記授与式

目次

奥羽大学の理念・目的 / 令和7年度卒業証書・学位記授与式 / 祝辞	1
告辞 / 答辞	2
歯学部 第49期 謝恩会 / 薬学部 第18期 謝恩会	3
令和7年度学位授与論文題名一覧	4
筑波大学・永田学長による全学FD研修会を開催 韓国・慶熙大学歯学部教員による附属病院セミナーを開催 —学術交流を通じ、両校の友好関係をさらに深化— 令和7年度第3回薬学部教育研修・講演会	5
第78回奥羽大学歯学会の開催 福島県歯科医師会「新年学術講演会」にて本学の高橋慶壮教授が講演	6
小林初夫図書館長が「中部地方の方言」について成人大学で講演 歯学部・鈴木史彦教授の研究成果が国際誌『Frontiers of Medicine』に掲載 薬学部・小林洋平助教がB細胞性リンパ腫の増殖メカニズムを解明	7
自著を語る	8
自衛消防訓練 / キャンパスの風景	9
ちょっと寄り道 / 歯学部新任教授紹介	10
同窓生のひろば / 人事	11
薬用植物園だより3	12
特待生募集	

182

通算 第307号

奥羽大学の理念・目的

理 念

高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな人材を育成する。

目 的

奥羽大学は、教育基本法(昭和22年法律第25号)並びに学校教育法(昭和22年法律第26号)に基づき、広く知識を養うと共に、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を育成し、国民の福祉と文化の発展に寄与することとし各学部のその目的は、次の各号のとおりとする。

1. 歯学部は、高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな歯科医師を養成する
2. 薬学部は、高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな薬剤師を養成する

令和7年度卒業証書・学位記授与式

3月10日(火)、卒業証書・学位記授与式が、本学第2講義棟 第1講義室において挙行された。

式典は来賓のご臨席を賜り、保護者や教職員が参列し、厳粛に進行した。来賓を代表して、学校法人晴川学舎大桶志延理事長が祝辞を述べられ、清浦有祐学長が告辞を贈った。卒業生を代表して、薬学部薬学科の田口咲葵さんが答辞をした。

歯学部歯学科47名、薬学部薬学科72名に卒業証書ならびに学位記が、また大学院修了者13名に歯学(博士)の学位記が授与された。



学位記を授与された國分瑚楠さん(歯学部)



答辞を述べて、学位記が授与された田口咲葵さん(薬学部)



学位記を授与された南木小杏也さん(大学院)

祝辞

理事長 大 桶 志 延

本日ここに卒業証書並びに学位記を手にとられます皆さんと、そのご家族の方々に心よりお祝いを申し上げます。本日は、誠にありがとうございます。

皆さんにとりまして、今日までの長い間には多くの事を経験なされたことと思います。限られた時間では到底語り尽くせぬ程の数多の経験は、「思い出」という一括りの言葉にとどまることはなく、必ずや皆さんの人生に豊かな実りを齎す良質な肥料となってくれることを信じております。

とりわけ最後の学生生活である本学で、皆さんが「物事の本質を捉える大切さ」を学んで行ってくれば、私どもにとってこれ以上の喜びはありません。

何事も一朝一夕にできることばかりではありませんが、困難が全てでもありません。今、自分

の前になすべきことがあれば、できぬ心配をするよりは、できたときの喜びを心に描いてやってみる事です。失敗は成功の母、何度でも立ち直る努力を厭わなければ挫けることは恥にはなりません。今日の仕事を明日に延ばさず、今日の仕事としてやり遂げる事です。一日一日実行し、繰り返し積み重ね続けていく先に、新たな可能性が生まれ目標は達成されます。

卒業生の皆さんが、常に良識と善意を備え、社会から望まれる立派な医療人となって貢献されることを希っております。

結びに、本日御臨席されました皆々様の御健勝を祈念して祝辞といたします。

告辞

学長 清 浦 有 祐

本日ここに、令和7年度卒業証書・学位記授与式を、厳粛かつ晴れやかに挙行できますことは、本学にとりまして、無上の慶びであります。

歯学部歯学科より学士の学位を取得された47名の皆さん、薬学部薬学科より学士の学位を取得された72名の皆さん、そして大学院において博士の学位を授与された13名の皆さん。皆さん一人ひとりが積み重ねてこられた努力と研鑽に、深い敬意を表し、心よりお祝い申し上げます。また、本日の日を迎えるまで変わることなく、皆さんを支えてこられたご家族・保護者の皆様に、深甚なる感謝と敬意を表します。加えて、本日の式典にご臨席を賜りました学校法人晴川学舎理事長大桶志延先生をはじめ、ご来賓の皆様方に、厚く御礼申し上げます。

皆さんが学び舎として選び、今日まで歩んでこられた奥羽大学は、1972年、故・影山四郎先生によって、東北初の歯科大学として創設されました。当時、この東北の地には、歯科医療を切実に必要としながらも、十分な医療を受けることができない方々が多数おりました。その現実を前に、影山先生は周囲の反対や困難を恐れることなく、「この地に、歯科医師を育てる大学をつくる」という決断を下されました。それは、人のために、今、何をなすべきか。その一点を考え抜いた末の、時代を引き受ける決断でありました。この志は時代を超えて本学に受け継がれ、大学院の設置、薬学部の新設へと実を結び、多く

の歯科医師、薬剤師、そして博士を社会に送り出してまいりました。皆さんは、その系譜に連なる最も新しい担い手として、今日この場に立っています。

これから皆さんの前には、これまでとは比べものにならないほど広い世界が開けていきます。歯科医師として、薬剤師として、皆さんは今日から、人の生活に直接役立つ知識と技術を持つ存在になります。痛みが和らいだときの表情、安心して帰っていく後ろ姿、「来てよかった」と言われる一言。その一つひとつが、学び続けてきた日々の意味を与えてくれます。

医療は、目の前の一人に誠実であろうとする姿勢が、自然に人を支えていく仕事です。忙しい日もあるでしょう。思い通りにいかない日もあるでしょう。それでも、皆さんが身につけた知識と技、そしてここで育んだ人へのまなごしは、必ず誰かの役に立ちます。人は、大きな出来事によってではなく、日常の中の小さな安心によって支えられています。皆さんはこれから、その安心を生み出す側に立ちます。どうか胸を張って歩んでください。皆さんの仕事は、社会に確かに必要とされています。奥羽大学は東北の地に根差しながら、これからも歯学と薬学の最新の研究成果を世界に発信していきます。

本学は、皆さんを社会に送り出す学び舎であると同時に、いつでも訪ねることができる場所であり続けます。成長した姿を見せに、また母校を訪ねてください。皆さんの未来が、喜びに満ちた歩みとなることを願っています。

ご卒業、誠にありがとうございます。

答辞

卒業生代表 薬学部 田 口 咲 葵

肌をさすような冷たい外気が和らぎ、吹く風にも穏やかな春の訪れを感じる季節となりました。この佳き日に、私たちはこの学び舎を巣立ち、それぞれの未来へと歩み始めます。

本日は、理事長先生、学長先生をはじめ、ご来賓の先生方、関係各位の皆様のご臨席のもと、素晴らしい式典を催していただき、卒業生一同心より感謝申し上げます。この日を迎えることができたこと、その喜びを皆様と分かち合えることをとても幸せに思います。

私たちの大学生活は新型コロナウイルス感染症と共にありました。入学式も行われず、マスクが欠かせず、隣の友人の素顔も分からないような日々が続きました。学生実習も思うように出来ず、思い描いていた学生生活とはかけ離れたもので、何気ない普通の生活がいかに幸せだったのかを痛感させられる毎日でした。長いようで短かったこの時間を経験したことで私たちは人としても医療人としても成長し、自信を持って患者さんと向き合い続けることができます。このかけがえのない時間を胸に秘め、患者さんのために生涯研鑽を積んでいきたいと思えます。本日、私たちは奥羽大学を卒業し、それぞれが

選択した道を歩み始めますが、いずれの道も決して平坦ではなく、想定外の出来事が待ち受けていることでしょう。しかし、どんなときにもこの学び舎で得た知識や人との繋がりを生かし、困難を乗り越え、より良い未来を切り拓いていくことをここに決意いたします。

最後になりましたが、未熟な私たちをご指導くださいました先生方、学生生活を支えてくださった職員の皆様、支え合い切磋琢磨した友人、いつも暖かく見守りここまで大切に育ててくれた家族に、改めてお礼を申し上げるとともに皆様のご健康と奥羽大学の輝かしい発展を祈念いたしまして、答辞とさせていただきます。

歯学部 第49期 謝恩会

3月10日(火)、卒業証書・学位記授与式後、午後6時00分より、郡山ビューホテルアネックス4階花勝見の間において、歯学部第49期謝恩会が開かれた。

大桶志延理事長、清浦有祐学長、瀬川洋歯学部長の挨拶の後、出席者全員の集合写真が撮影された。その後、鏡開きが続いて、川合宏仁教授の乾杯の発声で会がスタートした。

卒業生たちは恩師や学友、保護者らと6年間の大学生活の感謝や思い出を和やかに語り合っていた。



出席者全員の集合写真

薬学部 第18期 謝恩会

3月10日(火)、卒業証書・学位記授与式後、午後5時30分より、郡山ビューホテルアネックス3階雲水峰の間において、薬学部第18期卒業準備委員会の主催による謝恩会が開かれた。

謝恩会準備委員会委員長の佐藤あすかさんの開会のことば、大桶志延理事長、清浦有祐学長、押尾茂薬学部長の挨拶に続き、鏡開きが行われ、6学年主任の高橋成周教授の乾杯で会がスタートした。乾杯の後は、恩師や学友たちと和やかに語り合っては別れを惜しんでいた。



出席者全員の集合写真

令和7年度学位授与論文題名一覧

	学位 記番号	授与 年月日	申請者	専攻・講座	論文題名
1	454	2026.3.10	南木小杏也	生体管理学	Histochemical study of vasoconstriction by 2% lidocaine included dexmedetomidine in rat mandible
2	455	2026.3.10	安部美優子	生体管理学	Morphological study of the influences to the airway mucosa by the tracheal intubation
3	456	2026.3.10	濱村 真紀	生体管理学	糖尿病モデルマウスにおけるCandida parapsilosis によるカンジダ血症の発症メカニズム
4	457	2026.3.10	池田 丈博	顎口腔外科学	上顎洞底挙上術後のパノラマエックス線写真と歯科用コーンビーム画像の比較検討
5	458	2026.3.10	荻野 早紀	顎顔面口腔 矯正学	Effect of Pre-Surgical Orthopedic Treatment on Hard and Soft Tissue Morphology in Infants with Cleft Lip and Palate
6	459	2026.3.10	小平 杏子	口腔感染症学	Candida albicans に対する重症複合体型免疫不全症マウスの宿主反応
7	460	2026.3.10	金子 正慶	口腔感染症学	重度複合型免疫不全症モデルマウスに対する non-albicans Candida spp. の感染
8	461	2026.3.10	北村 貴也	口腔感染症学	Candida albicans に対する糖尿病モデルマウスの宿主応答
9	462	2026.3.10	小須田一剛	顎顔面口腔 矯正学	BEST3はST2細胞におけるRANKL発現を促進する
10	463	2026.3.10	小林 陽子	小児歯科学	乳前歯コンポジットレジン冠修復における歯頸部辺縁形態が破折防止に与える影響
11	464	2026.3.10	佐川 真里	口腔感染症学	Candida tropicalis 感染に対するT細胞及びB細胞欠如マウスの宿主応答
12	465	2026.3.10	月村 久恵	顎口腔外科学	カプサイシンによる生理的味覚性発汗と唾液分泌の反
13	466	2026.3.10	月村 義隆	顎口腔外科学	デルフィニジンによるCa9-22細胞の増殖抑制作用

筑波大学・永田学長による全学FD 研修会を開催

11月21日(木)、筑波大学学長の永田恭介氏を講師に迎え、全学FD研修会が開催された。永田氏は、大学において日本の高等教育改革と研究力強化の最前線を長年牽引してきた国内屈指のリーダーであり、その講演は本学教員にとって極めて貴重な機会となった。

講演ではまず、わが国の研究力の現状と課題について、国際的な視点と豊富なエビデンスに基づいた丁寧な解説が行われた。人口減少社会を迎える中で、大学がいかにして研究力を維持・発展させ、世界と伍していくべきか——。そのために必要な戦略や大学改革の方向性について、示唆に富む提言がなされた。

さらに、筑波大学における学生支援、研究基盤整備、国際展開など、多方面にわたる先進的な大学運営の実践例が紹介された。「世界を見据え、未来を創る大学」としての揺るぎない理念と行動力が示されたそれらの取り組みは、参加した教員一同に大きな刺激を与えるものであった。永田氏が示したビジョンは、単なる制度の改革にとどまらず、これからの大学が社会に果たすべき役割、そして「人づくり」「組織づくり」の本質を問い直す哲学に裏打ちされていた。本学にとっても、今後の研究教育改革を推進する上での極めて重要な指針となる内容であり、参加者に深い示唆と新たな視座を与える有意義な時間となった。

韓国・慶熙大学歯学部教員による附属病院セミナーを開催 —学術交流を通じ、両校の友好関係をさらに深化—

1月29日(木)、本学歯学部臨床講義室において、姉妹校である韓国・慶熙大学歯学部から、歯科放射線学を専門とするKim Gyu-Tae博士ならびに口腔内科学を専門とするKim Tae-Seok博士を迎え、附属病院セミナーが開催された。

Kim Gyu-Tae博士からは、慶熙大学歯学部の設立の背景に始まり、現在に至るまでの教育体制、研究の特色、さらには臨床・教育を支えるスタッフ体制に至るまで、同大学が長年にわたり築き上げてきた歯科医学教育の理念と実践について、体系的かつ示唆に富む講演があった。韓

国を代表する歯学部の歩みと現在地を直接知る貴重な機会となった。

続いてKim Tae-Seok博士からは、専門である口腔顔面痛治療における心理学的アプローチについて、自身の研究成果を基盤とした最新の知見が紹介された。症状の背景にある心理的要因をいかに臨床に結び付けるかという視点は、参加者に強い印象を残した。

当日は、本学の臨床系教員をはじめ、臨床実習中の歯学部学生も多数参加した。講演後には、活発な質疑応答が行われるなど、会場は終始、学術的熱気に包まれていた。

本セミナーは、歯科医学・歯科医療をめぐる国際的視野を広げるとともに、本学と慶熙大学との学術交流および友好関係を、さらに深化させる重要な契機となった。

また、セミナー終了後には歓迎会が催され、和やかな雰囲気の中で、今後の交流と連携に向けた意見交換が行われた。



慶熙大学の教育と歩みを解説するKim Gyu-Tae博士



最新の臨床知見を紹介するKim Tae-Seok博士

令和7年度第3回薬学部教育研修・講演会

2月5日(木)、第3回薬学部教育研修・講演会を開催した。福島県立医科大学医学部疫学講座助

教の佐藤志帆先生を招き、「薬剤疫学の実践：システマティックレビューとリアルワールドデータ解析」と題した講演を拝聴した。薬剤疫学は人の集団における薬物の使用とその効果や影響を研究する学問とされ、医薬品の適正使用の確立に寄与すべく市販後医薬品の使用実態の研究に適用されている。薬学部でも2024年度から実施の新カリキュラムで「疫学」という科目を設置し、薬剤疫学教育の充実を図っている。

講演では、佐藤先生がこれまで行ってきた研究の一部として、蘇生時の抗不整脈薬の有効性評価をメタ解析やレセプトデータを用いて行った研究や、副作用データと機械学習を用いた重症薬疹の予後予測研究が紹介された。ビッグデータの解析はこれまで本学では行われていないものであり、今後、薬剤疫学という視点が新たな研究課題につながっていくものと期待される。



「薬剤疫学の実践」について講演する佐藤志帆先生



熱心に聴講する参加者

第78回奥羽大学歯学会の開催

11月8日(土)、第78回奥羽大学歯学会が開催された。歯学部教員および大学院生を中心に13演題の発表が行われ、基礎から臨床に至る幅広い分野における最新の研究成果が報告された。各

演題に対しては活発かつ建設的な討議が交わされ、研究内容の深化と学術的視野の拡大に資する有意義な機会となった。

また、当日は高橋慶壮教授による「成人の保存的な歯科治療 — 健康寿命延伸への貢献」と題した特別講演も行われた。歯学会は、本学における研究活動の成果を共有するとともに、若手研究者の育成と歯学研究の一層の発展を促す学術交流の場として重要な役割を担っている。今後も本学の学術活動を支える場としての発展が期待される。

福島県歯科医師会「新年学術講演会」にて本学の高橋慶壮教授が講演

1月17日(土)、福島市内の「エルティ ウェディング・パーティ エンポリウム」において、福島県歯科医師会主催の「新年学術講演会」が開催された。当日は歯科医師会員33名が出席し、本学歯学部歯科保存学講座歯周病学分野の高橋慶壮教授が講師として招聘され、「成人の保存的な歯科治療」という演題で講演を行った。

高橋教授は、日本の歯科医療の深層に横たわる「構造的なジレンマ」について、歯科医学史という時間軸と社会心理学的な軸を交差させながら鋭い指摘を加えた。かつてセンメルヴェイス医師が直面した「正論が拒絶される」という悲劇を鏡に、現在の治療偏重主義を批判的に考察し、制度的な制約や認知的不協和がいかに「予防」への移行を阻害しているかを透徹した視点で分析した。

講演の後半では、精緻なエビデンスと臨床推論の結晶である包括的治療の臨床例が数多く披露され、歯科医師が追求すべき「患者個別の最適解」の在り方が具体的に具現化された。締めくくりとして、次世代の歯科医療を切り拓く唯一の道は、生涯を通じた「知の再構築(学び直し)」という責務を全うすることにあると説き、知的好奇心と謙虚な自己省察の重要性を強調した。高橋教授の講演は、聴講者に深い感銘を与え、盛況のうちに終了した。

小林初夫図書館長が「中部地方の方言」について成人大学で講演

南相馬市の成人大学が11月19日(水)に原町生涯学習センターで開催され、小林初夫図書館長が講演した。演題は「中部地方の方言」で、約80名の市民が参加した。はじめに、本州のほぼ中央に位置する中部地方には東日本と西日本の方言の境界線が集中しており、方言の東西対立の境目になっていること。その境目は新潟県糸魚川市と静岡県浜名湖を結んだ線のあたりで、地質学の「糸魚川静岡構造線」とほぼ一致していることなどを地図で説明してから、新潟県北部は東北方言、福井県西部は近畿方言の特徴があり、長野県や岐阜県には東西両方の特徴が見られ、東西の文化や方言が融合していることを各県の語彙や文法を例示しながら解説した。参加者は、富山県や石川県の「ちんと」(じっとしている)や岐阜県の「こわい」(恥ずかしい)、静岡県の「ずない」(気が強い)など、福島県とは同じ方言でも意味が全く違っていることばに興味を示し、メモを取りながら熱心に聴講していた。

※福島県は「ちんと」(少し)、「こわい」(疲れる)、「ずない」(大きい)。



中部地方の方言について学んだ成人大学

歯学部・鈴木史彦教授の研究成果が国際誌『Frontiers of Medicine』に掲載

歯学部の鈴木史彦教授が金沢大学医学部との共同研究により取り組んだ研究成果が、国際的な医学雑誌『Frontiers of Medicine』に掲載された。("Association of oral frailty and gut microbiota

with hypertension: cross-sectional results in the Shika study." Doi: 10.1007/s11684-025-1169-8)本研究は、オーラルフレイル(口腔機能の軽度低下)と、次世代シーケンシングによって解析された腸内細菌叢データを組み合わせることで、特定の腸内細菌とオーラルフレイルの併存が高血圧症と関連することを明らかにした、極めて新規性の高い疫学研究である。

本成果は、口腔健康と全身疾患との関連を多角的に検証するうえで重要な知見を提供するものであり、今後の予防医学の発展に寄与することが期待される。本学では、今後も口腔医学の枠を超えた先端的研究を推進し、地域社会および国際的な医療課題の解決に貢献していく方針である。

薬学部・小林洋平助教がB細胞性リンパ腫の増殖メカニズムを解明

1月17日(土)、仙台市で開催された日本薬学会東北支部若手研究者セミナーにおいて、薬学部小林洋平助教が最新の研究成果を発表した。

発表演題は「TLR9/IgM依存的なB細胞性リンパ腫の増殖に関与する分子の解析」であり、血液がんの一種であるB細胞性リンパ腫(DLBCL)の増殖メカニズムに関する新たな知見が報告された。本研究は、これまでB細胞のマーカーとして知られてきたCD20が、単なる目印にとどまらず、DLBCLの増殖を促進する重要な役割を果たす分子であることを明らかにした。その具体的なメカニズムとして、CD20が細胞表面のIgM分子の量を増加させ、DLBCLの増殖に関わるシグナルを活性化することが示された。また、CD19がAKTと呼ばれる分子を活性化することで、この増殖シグナルをさらに増強する役割を担っていることも発見した。

これらの成果は、DLBCLの病態解明に新たな視座を与えるとともに、将来の新規治療法の開発につながることを期待される。

自著を語る

『福島県の野生ラン』

山下俊之・山下由美 著 福島民報社 2026年1月刊行



学報第175号(2023年10月31日)にて前著『ふくしま スミレ図鑑』をご紹介いただきました。このたび、その第2弾として、福島県に自生するラン科植物の写真図鑑を出版いたしました。本書は、私たち夫婦が本学薬学部の開設を機に福島県に移住して以来、約18年にわたり県内各地で撮影してきた、変種・品種を含む108種のラン科植物を掲載しており、それぞれについて、国内分布、生育環境、特徴、および県内のおおよその分布について解説を加えています。

ラン科植物は種類が多く、世界におよそ26,000種、日本にも320種ほどが分布しています。形態はきわめて多様で、地生のもののほか、樹木や岩に着生するもの、緑葉をもたず光合成を行わない菌従属栄養植物などもあります。前著で扱ったスミレは花の形が独特なため一目でスミレの仲間とわかりますが、ランは花の形や草姿

が実にさまざまで、その多様性も大きな魅力の一つです。

ランはカトレアや胡蝶蘭のように古くから観賞用として親しまれてきましたが、山野に咲く野生ランにも素朴で心惹かれるものが多くあります。しかし現在、その多くが絶滅の危機に瀕しています。ランの生育は菌類(カビやキノコの類)との共生に強く依存しているため、各種開発行為や気候変動の影響を受けやすいのです。また、その希少性ゆえの盗掘も絶えず、徹底した保護が求められています。

福島県でも多くの野生ランが見られ、国内に分布するラン科植物の種のおよそ3分の1が自生しています。本書ではこれらをほぼ網羅していますが、特筆すべきものとして、私たちが県内での自生を明らかにした「タンザワサカネラン」、郡山市で見出した国内新産種「オトメヤガラ」、新種として記載した「ミヤマトキソウ」、いわき市で見出され国内分布の北限が更新された「マヤラン」などが挙げられます。また、近年県内で初めて自生が確認された種や、見る機会の少ない希少種、さらに東北地方では珍しい着生ランなど、県内の多様なラン科植物の写真と情報を収めた一冊となっています。

なお、本書は福島民報社および㈱民報印刷の編集協力のもと自費出版したもので、県内主要書店にて取り扱っております。また、ネットショップ(STORES)でも送料無料でお求めいただけます(URL: <https://hanapapa-book-photo.stores.jp>)。

本書を通して、福島県に咲く野生ランの多様性と魅力が広く知られ、自然保護への関心の高まりに寄与することを願っています。

(元奥羽大学薬学部教授、福島大学共生システム理工学類客員研究員 山下俊之)



自著を手にする山下俊之先生

附属病院

自衛消防訓練

12月16日(火)、病院棟5階臨床講義室前ホールに参加者が集合し、今年度2回目の自衛消防訓練が実施された。1.地震発生時の避難誘導、2.火災発生時の通報連絡・119番のかけ方、3.火災発生時の避難誘導、4.救助袋による避難訓練の順で訓練が実施された。病院棟5階臨床講義室北側設置の垂直式救助袋を利用した2階通路への避難訓練には、新入教職員が積極的に参加した。その後1階の玄関ホールに移動し、消防設備の取り扱い説明を受けた後、初期消火に有効な消化器による消火訓練が実施された。今回の自衛消防訓練には53名の参加があり、参加者全員が有事に備え、真摯な姿勢で訓練に臨んでいた。



垂直式救助袋を使用した避難訓練の様子



消火訓練に臨む参加者

キャンパスの 風景

大きなおどろきに胸をうたれる

村野四郎

おまえが入学したときは
まるで かawaii苗木のようだった
枝もなく そして葉もなかった
けれどもきょう おまえを見るときに
大きなおどろきに胸をうたれる
おまえの幹は しっかりとし
さしかわす知恵の枝々
風にそよぐ やわらかい感情の茂り
おお この美しい成長はだれがくれた



キャンパス内に立つ大樹

一本の樹を眺めていると、人生の縮図のように思えてきます。根を張り、幹を太くし、枝葉を広げていく過程は、私たちの歩みと重なります。さしかわす枝々は、これまでの経験と学びの積み重ねを示し、風にそよぐやわらかな茂りは優しさや思いやり、そして未来への希望を映します。また、やさしい風に揺れる樹の姿は、人生の多彩な側面を映し出しているように思えるのです。

2026年3月10日(火)、132名(歯学部47名、薬学部72名、大学院13名)が本学を巣立ちました。皆さんがこれから歩む道は、多くの可能性に満ちています。樹のように、しなやかに、しっかりと根を張りながら、風に揺れる枝のように柔軟な心で、未来を見つめてほしいと思います。たとえ時に嵐が訪れても、皆さんの内にある強さと優しさが、必ずや道を照らしてくれることでしょう。

人生は長い旅路です。一本の樹のように、ゆっくりと、しかし確かに成長し続けてほしいと心から願っています。これから先、梢が空へ向かってどこまでも広がり、いつか大きな花を咲かせますように。

(撮影・文 本多真史)

ちょっと寄り道! イェール大学教授朝河貫一の業績

歴史に「もしも・・・」があるならば、あの太平洋戦争は回避されていた。というのは、戦争責任者である東条英機の談話に「もし親書が数日早くつき、ハル・ノートがもう少し協動的であったならば、戦争は始めえなかったであろう」と衝撃的な発言があるのだ(来栖三郎『泡沫の三十五年』)。

ここに出てくる親書とは、1941年12月6日、アメリカのルーズベルト大統領が、日本の天皇陛下あてに平和を呼びかけた重大文書のことで、実はこの親書の草案起草者がイェール大学教授朝河貫一であったのだ。親書は超緊急電報で日本の大使館に送られたが、翻訳に時間がかかり、その上配達に10時間遅れて、東郷外相が天皇に全文を読み上げられたそのとき、真珠湾攻撃は開始された。

このことはあまり知られていないようだが、阿部善雄『最後の日本人—朝河貫一の生涯』に書かれてある。親書の全文も掲載されている。

朝河貫一(1873-1948)は野口英世と同時代の人。ともに福島県生まれで、人生の大半をアメリカで過ごした。朝河は東京専門学校(早稲田大学の前身)卒業後渡米、アメリカで日本の歴史を研究、『入来文書』(英文)は世界的に著名だ。イェール大学教授という肩書きだけではなく、世界的な歴史政治学者として、平和へのメッセージは注目された。朝河は一貫して日本の中国大陸進出を懸念、日本軍の大陸よりの撤退を主張した。全体主義国家イタリア、ドイツ、日本は敗北するであろうと予言もした。アメリカに対しても「アメリカは日本の理解が欠如している。アメリカは謙虚という学科を新しく学ばなければならない。あまりにもブルドーザー的だ」と忠告している。

(A)

歯学部新任教授紹介



歯学部

口腔衛生学講座

教授 南 健太郎

2025年10月1日付で奥羽大学歯学部口腔衛生学講座教授を拝命いたしました南 健太郎と申します。この場をお借りして、謹んでご挨拶申し上げます。

私は富山県出身で、幼少のころからむし歯が多く、なぜむし歯ができるのか、どうしてむし歯は歯科医院に行かないと治らないのかと疑問に思っていました。そのことがきっかけとなり、高校卒業後は岩手医科大学歯学部に進学し、歯科医師の道を志しました。大学卒業後は、同大学大学院に進学し、「プラーク下におけるエナメル質の再石灰化」に関する研究に従事しました。また、江崎グリコのリン酸化オリゴ糖を使用し

た歯質の再石灰化促進ガム「POs-Ca」の開発において、歯質再石灰化の実験を担当しました。現在、この製品には低濃度のフッ化物が配合されており、咀嚼することで口腔内にカルシウムイオンとフッ化物が広がり、従来の製品よりも歯質の再石灰化に貢献する製品となっております。大学院修了後は、同大学の予防歯科学講座の助手となり、2009年にはオランダの国立フローニンゲン大学に1年間留学し、歯質再石灰化研究についてさらに研鑽を積み機会を得ました。

2018年度より奥羽大学歯学部口腔衛生学講座に講師として赴任し、病院や介護施設で使用される口腔保湿剤にリン酸化オリゴ糖を配合することで、保湿・潤滑作用に加え、初期齲蝕の予防および再石灰化促進を可能とする新たな口腔保湿剤の開発に取り組んでおります。歯科医療が「治療」から「予防」へと大きく転換していく中で、再石灰化研究は今後ますます重要性を増す分野であると考えております。

教育面においては、口腔衛生学、社会歯科学、歯科医療管理学の3教科を担当しております。特に口腔衛生学や歯科医療管理学においては、これまでの臨床経験を活かした実践的な講義を心がけております。また、国家試験およびCBT合格を見据えた体系的かつ効果的な教育体制の充実に努めています。

学生指導においては、私は長年、極真カラテを修行していることから、本学空手道部の顧問を務めさせていただいております。また、週一回ですが、学生に極真カラテを指導しております。厳しい稽古ではありますが、学生達は日々熱心に稽古に励んでおり、昨年の全日本歯科学学生総合体育大会空手道部門において、本学空手道部は全国総合準優勝という成績を収めました。文武両道の花の精神のもと、学業と課外活動の双方に真摯に取り組む姿勢を育てていきたいと考えております。

今後も奥羽大学の発展に貢献できるよう、教育・研究・学生指導のすべてにおいて一層尽力してまいります。今後ともご指導とご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

同窓生のひろば

薬学部



齊藤 鮎美(旧姓 歌川)
(薬学部12期生)

2022年に奥羽大学を卒業してから4年が経ちました。現在は、福島県の地域密着型ドラッグストア「ハシドラッグ」にて、調剤業務とOTC対応の両方に携わりながら日々の業務に励んでおります。ハシドラッグでは「未病」を大切にしており、生活習慣を含めた日常的な指導を通して、地域の皆さまが病気になる前から健康を意識できるような関わりを心がけています。西洋医学の知識に加え、「未病」という視点から中医学の学びも深め、より広い角度から健康を支えられる薬剤師を目指しています。

医療費がひっ迫する中、セルフメディケーションの重要性はますます高まっています。地域の方々の方が自分の健康に関心を持ち、適切に行動できるよう、日頃から積極的に声をかけることを大切にしています。調剤にとどまらず、多面的

に健康を支えられる薬剤師でありたいという思いが、私の仕事の原動力となっています。

また、現在は採用担当としての業務にも携わっており、奥羽大学には卒業後も変わらずお世話になっております。在学中から先生方には温かく寄り添っていただき、心強い支えとなりました。卒業後も変わらず気にかけていただけることに、深く感謝しております。今後も地域医療に貢献できるよう、より一層精進してまいります。

結びに、私の薬剤師としての礎を築き、多くの学びと経験を与えてくださった奥羽大学に心より感謝申し上げます。貴学のさらなるご発展をお祈りいたします。

人 事

<任用>

池田 敏和 講 師 歯科補綴学 10月1日付

<昇任>

	新	旧	
南 健太郎	教 授	准 教 授	10月1日付
	口腔衛生学	口腔衛生学	

<定年>

小野 睦彦	材料室主任	病院事務部	9月30日付
水口 秀勝	守衛主任	総務部	12月29日付
神山 淳子	看護師	病院医療部	〃

<再任用>

小野 睦彦	事務職員	病院事務部	10月1日付
水口 秀勝	警備職員	総務部	12月30日付
神山 淳子	看護師	病院医療部	〃

<異動>

	新	旧	
国分 優子	事務職員	事務職員	11月10日付
	総務部	財務部	

<職位変更>

	新	旧	
田母神 盛一	技術職員	技術係長	10月31日付
	総務部	総務部	

<退職>

田母神 盛一	技術職員	総務部	11月6日付
鈴木 瑞樹	係 長	財務部	12月31日付



シャクヤク



シャクヤク(芍薬)は漢方処方のおおよそ3割に配合される重要な植物です。また、観賞用として「立てば芍薬、座れば牡丹、歩く姿は百合の花」は美人を形容する言葉です。一重咲きと八重咲き、花色は赤花と白花があります。薬用部位である根を収穫するまで4～5年の栽培期間が必要ですが、生育に影響が出ない程度に観賞用として一部の花を摘み取って「花の定期便」など副業として利用する方もいます。漢方薬としては、筋肉が固くなってひきつるのを治す処方や、婦人薬・通経薬などに使われ、例として芍薬甘草湯(けいれん)、葛根湯(風邪)、当帰芍薬散(婦人薬)などがあげられます。天然品をそのまま使った赤芍(せきしゃく)、湯通しして外皮を取り去った白芍(びやくしゃく)があり、前者は血液循環障害を除く力が強く、後者は鎮静・鎮痛効果が強く滋養効果があるといわれますが同じように使われます。芍薬は必ず他の生薬と一緒に使われます。芍薬甘草湯(芍甘湯ともいう)は、シャクヤクとカンゾウの2つの生薬を組み合わせた漢方薬でこむら返りの特効薬ですが、含有成分が腸から体に吸収されるまでの時間よりも、実際に効き目が出る時間が早い理由が完全にわかっていません。また、食薬区分では、シャクヤクの根は医薬品となっているため医薬品・医薬部外品・化粧品原料以外には使えませんが、その他の部分は医薬品ではないので、花をお茶にするなどの食用として使えます。

(薬学部 村田清志)





豊かな学修環境



最大6年間
学費
フルサポート



自力進学支援型

歯学部・薬学部 特待生募集

▶ 返納義務無し ▶ 一時納入の必要無し

キミのやる気と実力を存分に活かしてほしい。
医療人としての人生をここから始めよう。
人間性豊かな歯科医師、薬剤師になるために。



人間力を
養う教育

歯学部 **16名** 薬学部 **20名**

 歯学部
入学金 50万円のみ
最大6年間 **2,100万円** 免除

 薬学部
入学金 20万円のみ
最大6年間 **900万円** 免除

まずはお問い合わせください!



高度医療を
支える知識

Innovative Future
奥羽大学
オウウダイガク



TEL 024-932-8995

〈お問い合わせ先 企画・広報課〉
〒963-8041 福島県郡山市富田町字三角堂31番1 FAX:024-933-7372
E-mail:info@ohu-u.ac.jp